

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22310152

研究課題名（和文） アジア通貨危機の政治的遺産：政治の不安定をめぐる比較研究

研究課題名（英文） Political Impact of the Asian Economic Crisis:
Comparing Political Instability

研究代表者

玉田 芳史（TAMADA Yoshifumi）

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：90197567

研究成果の概要（和文）：

タイ、フィリピン、マレーシア、韓国の政治は、1997年のアジア通貨危機直後には安定していたものの、その後不安定になった。その主因は、社会的な格差や分断を増幅した新自由主義経済政策であった。社会経済的地位が不安定になった中間層は、多数派庶民の政治的台頭を前にして、数に対抗するために道徳という質を強調するようになった。そうした対立と不安定化が、タイとフィリピンではとりわけ顕著になっている。

研究成果の概要（英文）：

Indonesia, Malaysia, the Philippines, Thailand and Korea were the most serious victims of the 1997 Asian economic crisis. Political regime in Indonesia was seriously devastated just after the crisis. However, in the next few years, Indonesia came to boast democracy and stability while politics in four other countries has become unstable or less democratic. We have tried to search for the reason for this sharp contrast. We found that advancement of neoliberalism was a major reason for the economic crisis and political instability. Neo-liberal policies have deepened social problem of growing inequality that is already becoming politically salient. Widening disparity between the poor mass and the relatively rich middle class has make it increasingly difficult for both to accept the same rule of political game. The poor puts emphasis on numerical legitimacy and the rich on moral superiority. It makes electoral democracy less stable.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2011年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2012年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：東南アジア、地域間比較

1. 研究開始当初の背景

東アジア地域諸国のうちいくつかは 1997 年にアジア通貨危機の直撃を受けた。タイで

発生した危機はインドネシアと韓国を直撃し、マレーシア、フィリピン、香港にも打撃を与えた。通貨危機は金融危機や経済危機へ

と深化し、日本や中国にも間接的に波及した。さらに、ほどなくしてロシアやブラジルでも同様な危機が発生した。危機に襲われたタイ、インドネシア、韓国、フィリピン、マレーシアの5カ国の政治の現状を眺めると、大きな変化に気づかされる。1997年の東南アジアでもっとも民主的なのは、タイとフィリピン、それに次いだのはマレーシア、シンガポール、カンボジアであった。危機発生直後には政治がもっとも混乱したインドネシアは、東南アジアで政治がもっとも民主的となり、安定を誇るようになった。他方、残る4カ国に共通するのは政治の不安定化である。なぜ複数の国でほぼ同じ時期に政治の不安定が表面化してきたのか。

2. 研究の目的

東アジア地域は1997年に発生したアジア通貨危機の直撃を受けた。危機直後には、民主的な政治体制は危機に対して強靱であり、非民主的な体制は脆弱であると思われていた。しかし、今日では大きく様変わりしている。1980年代以後の民主化の先頭を走り、安定も享受していた韓国、フィリピン、タイの政治体制は不安定になり、一部では非民主化の様相すら呈している。他方、権威主義体制が崩壊したインドネシアは東南アジアではもっとも民主的となり、安定を享受してもいる。この10年ほどのうちに、なぜ政治体制が不安定になったのか。その理由の解明を試みるのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

アジア通貨危機の直撃を受けたタイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、韓国の5カ国を主たる研究対象として選び、通貨危機が政治に与えた長期的な影響について検討する。一方では各国の政治を地域研究の観点からつづさに振り返り、他方では他国と比較対照することによって、経済危機が政治を変化させた仕組みについて検討する。焦点は不安定化の理由を解明することにあつた。

代表者の玉田がタイ、分担者の河野がマレーシア、岡本と横山がインドネシア、日下がフィリピン、木村が韓国、そして比較対照事例となる中国を滝田、インドを上田、ロシアを河原が担当する。

4. 研究成果

通貨危機の引き金の1つとなり、通貨危機をきっかけとして浸透が一段と進んだ新自由主義経済路線が、社会の分断を強め、政治の不安定化を招いていることが、フィリピン、タイ、マレーシア、韓国で観察された。新自由主義路線の推進にもっとも熱心なのは韓国である。新自由主義経済が鍵を握ることは、それと距離をおいていたインドやロシアと

対比するとわかる。

政治の不安定化がとりわけ顕著なのはフィリピンである。日下によると、新自由主義経済が中間層の「市民圏」と貧困層の「大衆圏」への経済的な分断を強化したばかりではなく、道徳的な分断つまり道徳面の善し悪しへと読み替えられて、分断が一段と強化・固定化される方向に作用している。これはタイにおける都市中間層のうぬぼれの傲慢と似通っている。経済的な格差という階級問題を、道徳や文化に依拠した身分で一段と補強しようとする動きである。タイでは、そうした階層分化への傾向に赤シャツが「二重基準」という表現を用いて異議申し立てを行っているところである。タイの場合には、それに加えて、君主がヘゲモニーを握る体制の疲労・摩耗が不安定に拍車をかけている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

1 玉田芳史、タイ政治をめぐる外圧と内紛：アメリカによるウータパオ空港利用を中心として、国際情勢紀要、査読無、第83号(2013年2月)、247-268頁

2 玉田芳史、タイの政治：揺れる王国、學士会会報、査読無、第893号、2012年、38-43頁

3 玉田芳史、2011年洪水とタイ政治、国際情勢紀要、査読無、第82号、2012年2月、241-263頁

4 玉田芳史、安定を妨げる王室の政治利用、外交、査読無、Vol.09、2011年9月、102-106頁

5 玉田芳史、タイ政治における黄シャツと赤シャツ：誰、なぜ、どこへ、国際情勢紀要、査読無、81号、2011年2月、143-159頁

6 Haris Gunawan, Shigeo Kobayashi, Kosuke Mizuno, and Yasuyuki Kono. "Peat swamp forest types and their regeneration process in Giam Siak Kecil-Bukit Batu Biosphere Reserve, Riau, East Sumatra, Indonesia", *Mires and Peat Journal*、査読有、Vol. 10、2012、pp. 1-18

7 岡本正明、インドネシアのイスラーム主義政党、福祉正義党の包括政党化戦略、アジア・アフリカ地域研究、査読有、4巻1-2号、2011年3月、208-304頁

8 木村 幹、支配政党に見る朴正熙政権から全斗煥政権への連続と断絶、国際協力論集、

査読無、第20巻第2・3号、2013年1月、105-127頁

9 KIMURA, Kan, 'Discovery of Disputes: Collective Memories on Textbooks and Japanese? South Korean Relations' *Journal of Korean Studies*, 査読有、17(1)、2012, pp. 97-12

10 木村 幹、第五共和国の対民主化運動戦略：全斗煥政権は何故敗れたか、国際協力論集、査読無、第20巻第1号、2012年7月、63-91頁

11 KIMURA, Kan, Why Are the Issues of "Historical Perceptions" between Japan and South Korea Persisting?, 国際協力論集、査読無、第16巻第2号、2011年7月、1-28頁

12 河原祐馬、エストニアにおけるロシア語系住民の社会統合—「戦争記念碑」問題を中心として、社会科学論集、査読無、第49号(2011年)、61-85頁

[学会発表] (計34件)

1 TAMADA, Yoshifumi, Kanluaktang so. so. thi yipun 15 thanwakhom 2555, Special lecture, Faculty of Political Science, Chulalongkorn University, Thailand, December 20, 2012

2 TAMADA, Yoshifumi, "Prachathipatai thai rom phrabarami: Korani suksa cakraphat yipun", Special lecture, Faculty of Political Science, Chulalongkorn University, Thailand, March 13, 2012

3 TAMADA, Yoshifumi, "When Election Results Count", a paper presented at a conference "Democracy and Crisis in Thailand" held by Thailand Democracy Watch, Chulalongkorn University and McGill University at Chulalongkorn

University on March 9, 2012, Thailand

4 玉田芳史、タイ式民主主義と2011年7月総選挙、東南アジア学会秋季研究大会、東海大学高輪キャンパス、2011年12月3日

5 玉田芳史、タイ式民主主義の限界と不安定化、日本比較政治学会第14回研究大会、北海道大学、自由企画2 東南アジアコーカス「現代東南アジアにおける政治安定と経済危機」、2011年6月18日

6 玉田芳史、黄シャツ vs. 赤シャツ：選挙政治の否定と不安定、日本国際政治学会研究大会、札幌コンベンションセンター、2010年10月29日

7 TAMADA, Yoshifumi, Prachathipatai thai baep nai di, Special lecture, Faculty of Humanities, Chiang Mai University, Thailand, 24 Aug 2010

8 OKAMOTO, Masaaki, Institutionalized Politics of Constant Change in Metropolitan Jakarta, Indonesia Studies Group Seminar, ISEAS, Singapore, March 20, 2013

9 OKAMOTO, Masaaki, Two Different Politics by Megapolitan Voters in Jakarta, Indonesia", 2013 Annual Conference of American Asian Studies, San Diego, USA, March 22, 2013

10 岡本正明、アブラヤシ農園拡大をめぐる2つの正義とその相剋、アジア政経学会全国大会、関西学院大学、2012年10月13日

11 OKAMOTO, Masaaki, Real Politik of an Islamist Party, PKS in the Democratized Indonesia: 98-09, Seminar: Islam and Democracy: Two Expressions of Islam in Contemporary Indonesia, Harvard Kennedy School, Massachusetts, USA, October 20, 2011

12 岡本正明、インドネシアでのマイノリテ

ィ・キリスト教徒「不可視化」の政治とネーション再形成、2011年度日本政治学会研究大会、岡山大学、2011年10月9日

13 岡本正明、ポスト・スハルト期の安定化の政治：地方政治に着目して、日本比較政治学会第14回研究大会、北海道大学、自由企画2 東南アジアコーカス「現代東南アジアにおける政治安定と経済危機」、2011年6月18日

14 OKAMOTO, Masaaki, The 'Invention' of Parties and Candidates: The Ad Business and Image Politics in the Democratized Indonesia at Session 565: Votes for Power in Southeast Asia, AAS/ICAS Conference, Hawaii Convention Center, Hawaii, USA, April 2, 2011

15 KIMURA, Kan, Trilateral Cooperation in Northeast Asia and Risk Management - How to Establish the Win-Win Relations for the Mass -, 国際シンポジウム「東アジアの共生社会実現に向けた新しい東アジア研究」ソウル大学国際大学院、大韓民国、2013年1月

16 KIMURA, Kan, Trilateral Cooperation in Northeast Asia and Risk Management - How to Establish the Win-Win Relations for the Mass -, 日中韓三大学共同シンポジウム「東アジアと世界の危機管理に向けての弾力性の構築」復旦大学アメリカ研究センター、中華人民共和国、2012年11月

17 KUSAKA, Wataru, Moralization of Class Politics in Metro Manila: Criminalization of the Urban Poor under the Disciplinary Governance of the Metro Manila Development Authority, The Ninth International Conference on the Philippines, Michigan State University, Michigan, USA, October 28-30, 2012

18 目下 渉、フィリピンにおける「市民」の包摂と排除——道徳政治の陥穽、日本政治学会、岡山大学、2011年10月9日

19 KUSAKA, Wataru, Pitfalls of Moral Politics in the Post-Marcos Philippine: Moral Division of the Nation and Moral Nationalism, The Association for Asian Studies and the International Convention of Asia Scholars joint conference, Hawaii Convention Center, Hawaii, USA, April 2, 2011

20 KUSAKA, Wataru, From Interest to Moral: Changing Context of the Philippine's Class Politics, The Second Philippine Studies Conference of Japan. International Congress Center Epochal Tsukuba. November 13, 2010

21 目下 渉、『ピープル』vs『大衆』——フィリピン大統領選挙における2つのポピュリズム、アジア政経学会東日本大会、北海道大学、2010年5月22日

22 河野元子、マレーシア：曲がり角にある多民族国家の政治経済システム、『2012年度日本比較政治学会』、日本大学、2012年6月23日

23 河野元子、マレーシア：JKKK と地方開発行政、東南アジア学会第85回研究大会 パネル「分権化時代の地方行政とガバナンスーインドネシア、フィリピン、マレーシア」北海道大学 2011年6月11日、12日

24 KAWANO Motoko, Approaching an end of politics of reward and punishment?: Elections and Malay-ethnic politics in Malaysia, in the Panel Votes for Power in Southeast Asia., AAS-ICAS Joint Conference: The Association for Asian Studies- International Convention of Asia Scholars, Honolulu Convention Center,

Honolulu, USA, March31-April 3, 2011

25 河野元子、賞罰の政治は続くのか？—マレーシアにおける選挙戦とマレー政治、分科会『現代東南アジアの国政選挙：勝利を目指して』2010年度アジア政経学会東日本大会、北海道大学、2010年5月22日

26 水野広祐、世界金融危機とインドネシア経済」パネルディスカッション「世界不況下のアジア経済の躍動」アジア政経学会西日本大会、京都大学東南アジア研究所、2010年6月10日

27 MIZUNO, Kosuke, “Entrepreneur in East Asia, Political, Economical, Social and Cultural; Toward a New Model of East Asian Political Economy”, at Asian Core University Program Research Conference “Asian Connection” organized by Thammasat University on August 27th, 2010 at Bangkok, Thailand

28 滝田 豪、日本知識人の外交論と『東アジア共同体』、第一屆中台湾日本研究論壇「大變動の東亜：ECFA体制下台日社会政経結構的变化與展望」、東海大学（台湾）、2011年5月17日

29 滝田 豪、中国農村の組織改革——『村民自治』と『農村社区建設』——、日本政治学会2011年研究大会、岡山大学、2011年10月8日

30 滝田 豪、中東革命と中国——中国共産党政権の安定と不安定——、アジア政経学会2011年全国大会、同志社大学、2011年10月16日

31 上田知亮、現代インドの州政治と連立政権：中央一州関係の変容、人間文化研究機構現代インド地域研究事業2012年度国内全体集会、京都大学、2012年11月24日

32 上田知亮、ゴーカレーとガーンディー、龍谷大学現代インド研究センター・ユニット

1 研究会、2011年7月9日

33 上田知亮、イギリスのインド併合を当事者はどう観たか、日本国際政治学会2010年度研究大会、札幌コンベンションセンター、2010年10月29日

34 上田知亮、移民からみたナショナル・ポピュリズムと多文化主義——在英米インド系移民のイメージと適応戦略、日本比較政治学会2010年度（第13回）全国大会、東京外国語大学、2010年6月20日

〔図書〕（計15件）

1 河原祐馬・島田幸典・玉田芳史編『移民と政治』昭和堂、2011年1月、281頁

2 清水一史、田村慶子、横山豪志（編）『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年3月、270頁

3 玉田芳史（分担執筆）「タイー民主化と作用反作用—」山影進・広瀬崇子編『世界政治叢書7 南部アジア』ミネルヴァ書房、2011年、185-200頁

4 玉田芳史（分担執筆）「タイの立憲革命と文化変容」『岩波講座東アジア近現代通史5 新秩序の模索 1930年代』岩波書店、2011年、369-386頁

5 玉田芳史（分担執筆）「タイにおける選挙をめぐる攻防：民主化と脱民主化」吉川洋子編『民主化過程の選挙；地域研究から見た政党・候補者・有権者』行路社、2010年、223-244頁

6 川井秀一、水野広祐、藤田素子編『講座生存基盤論第4巻 熱帯バイオマス社会の再生—インドネシアの泥炭湿地から—』京都大学学術出版会、2012年、427頁

7 岡本正明（分担執筆）「慣習継承の政治学：スマトラ二州に見る公的継承プロジェクトの限界」鏡味治也編『民族大国インドネシア：文化継承のアイデンティティ』木犀社、2012年、221-248頁

- 8 岡本正明 (分担執筆) 「逆コースを歩むインドネシアの地方自治：中央政府による「ガバメント」強化への試み」 船津鶴代・永井史男編『東南アジア：変わりゆく地方自治と政治』ジェトロ・アジア経済研究所、2012年、27-66頁
- 9 日下 渉 『反市民の政治学——フィリピンの民主主義と道徳』、法政大学出版局、2013年、438頁
- 10 KUSAKA, Wataru (分担執筆), "Governing Informalities of the Urban Poor: Street Vendors and Social Order Making in Metro Manila.", Yuko Kasuya and Nathan Quimpo eds., *Politics of Change in the Philippines*, Pasig City: Anvil Publisher, 2010, pp. 362-390
- 11 上田知亮 (編) 『現代南アジアのイスラム—政治・開発・社会運動』(RINDAS シンポジウムシリーズ 2)、龍谷大学現代インド研究センター、2012年(山根聡・井上あえか・長崎暢子との共編)、72頁
- 12 上田知亮 (分担執筆) 『インド民主主義の発展と現実』、勁草書房、2011年、54-62、177-182、189-191、191-197頁
- 13 河原祐馬 (分担執筆) 『法学と政治学の新たな展開』(岡山大学創立六十周年記念論文集)、有斐閣、2010年、419頁
- 14 河野元子 (分担執筆) 「ブミプトラ政策の成功と限界—地方からみるマレーシアの開発政治」 大塚啓二郎・白石隆編『国家と経済発展』東洋経済新報社、2010年9月、123-152頁
- 15 河野元子 (分担執筆) 「マレーシアにおける地方行政と地方政府」 永井史男・船津鶴代編『東南アジアにおける自治体ガバナンスの比較研究』調査研究報告書、アジア経済研究所、2010年4月、87-109頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

玉田 芳史 (TAMADA Yoshifumi)
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
研究者番号：90197567

(2) 研究分担者

河原 祐馬 (KAWAHARA Yuma)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：50234109
木村 幹 (KIMURA Kan)
神戸大学・大学院国際協力研究科・教授
研究者番号：50253290
水野 広祐 (MIZUNO Kosuke)
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号：30283659
岡本 正明 (OKAMOTO Masaaki)
京都大学・東南アジア研究所・准教授
研究者番号：90372549
麻野 雅子 (ASANO Masako)
三重大学・人文学部・教授
研究者番号：10262982
日下 渉 (KUSAKA Wataru)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：80536590
横山 豪志 (YOKOYAMA Takeshi)
筑紫女学園大学・文学部・准教授
研究者番号：80320381
滝田 豪 (TAKITA Go)
京都産業大学・法学部・准教授
研究者番号：80368406
河野 元子 (KAWANO Motoko)
政策研究大学院大学・国際開発戦略研究センター・ポストドクトラルフェロー
研究者番号：80552017
上田 知亮 (UEDA Tomoaki)
龍谷大学・現代インド研究センター・研究員
研究者番号：20402943

(3) 連携研究者

無し